

# 小林和三郎

こばやし・わさぶろう

医学博士、大島療養所所長

## 経歴

生:明治14年(1881年)1月15日、広島県沼隈郡水呑町洗谷43番地(現福山市水呑町洗谷)生まれ

没:昭和8年(1933年)3月17日、高松市一番丁の自宅において脳溢血のために逝去、享年53歳、高松市姥ヶ池小林家墓地に葬る

明治27年(1894年)3月	13歳	広島県沼隈郡水呑村尋常小学校卒業
明治32年(1899年)3月	18歳	広島県第二尋常中学校(誠之館)卒業
明治37年(1904年)9月	23歳	第六高等学校卒業
明治41年(1908年)11月16日	27歳	京都帝国大学医学部卒業
明治41年(1908年)11月16日	27歳	卒業後直ちに同大学皮膚科学教室に入り、松浦有志太郎教授の指導を受け、皮膚科学を研鑽する
明治44年(1911年)2月24日	30歳	大島療養所医長
明治44年(1911年)9月6日	30歳	大島療養所所長
大正3年(1914年)9月6日	33歳	従六位
大正9年(1920年)3月29日	39歳	香川県技師(兼任)
大正9年(1920年)3月31日	39歳	香川県警察部衛生課勤務
大正9年(1920年)6月21日	39歳	正六位
大正12年(1923年)5月31日	42歳	高等官四等
大正14年(1925年)7月	44歳	欧米各国視察に出張
大正14年(1925年)12月1日	44歳	従五位
大正15年(1926年)5月	45歳	勲六等瑞宝章
大正15年(1926年)7月26日	45歳	帰国
昭和2年(1927年)11月5日	46歳	高等官三等
昭和4年(1929年)4月29日	48歳	京都帝国大学医学博士
昭和5年(1930年)7月8日	49歳	勲五等瑞宝章
昭和5年(1930年)11月10日	49歳	皇太后陛下より銀製花瓶一個と金一封を下賜せらる
昭和7年(1932年)7月1日	51歳	正五位

昭和8年(1933年)3月

52歳 従四位

### 生い立ちと学業、業績

明治14年(1881年)1月15日、水呑町洗谷43番地に生れ。  
広島県第二尋常中学校(誠之館)、第六高等学校、京都帝国大学医学科卒業。

明治44年(1911年)2月大島療養所医長に任じ、明治44年(1911年)9月同所長を命ぜらる。

大正14年(1925年)7月欧米各国視察に出張。

大正15年(1926年)5月勲六等瑞宝章を賜い、昭和4年(1929年)4月学位獲得。

昭和5年(1930年)11月10日多年癩救療事業に従事し功績尠からざるを聞しめされて皇太后陛下より銀製花瓶一個と金一封を下賜せらる。

昭和8年(1933年)3月従四位に叙せられた。

同昭和8年(1933年)3月17日、現役のまま高松市一番丁の自宅に於て死す。諡は清和院殿智博日慈居士。

大島療養所長の後任は、やはり誠之館出身の野島泰治氏が務めることとなった。(出典2)

### 誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作/発行	日付
05534	故小林博士記念事業会編	『小林博士追悼録』	故小林博士記念事業会	昭和12年
06577	佐伯見寿著	『水呑町史』	水呑町役場	昭和31年

取材協力:小林寅夫氏(昭和8年卒)、小林達治氏(昭和20年⑤卒)

出典1:『小林博士追悼録』、故小林博士記念事業会編刊、昭和12年10月12日

出典2:『水呑町史』、191頁、佐伯見寿著、水呑町役場刊、昭和31年9月10日

出典3:『広島県の医師群像—明治時代—』、42頁、阪田泰正著、安芸津記念病院郷土史料室刊、昭和61年1月1日

2006年1月13日追加●2006年1月18日更新:取材協力●2006年6月23日更新:タイトル●2007年1月31日更新:経歴・本文●2008年1月30日更新:経歴●2008年1月31日更新:本文●2009年9月18日更新:経歴・出典●2009年10月19日更新:出典●2009年11月18日更新:写真・経歴・誠之館所蔵品・出典●2011年1月24日更新:誠之館所蔵品・出典●